



あ と が き

全道民の願いを込めた誘致運動が実を結び、昭和48年9月国立旭川医科大学が設置、開学されたことは、無医地区全国一の本道にとって地域医療の格差是正と医師の養成、確保のため極めて意義深いものがあります。

本協力会は誘致動運の最中の47年10月に各界各層の関係者が集まり、旭川医科大学の設置決定に備え、大学受け入れ体制の万全を期し、合わせて、早期開学を目指し必要な諸施設の整備や、教養、医学関係図書及び研究機器の整備等を目的として設立されました。

幸いにも各方面から多大なるご支援をいただき所期の目的を達成し、48年予定どおり開学の運びとなりました。

いま、実際面の経過を振り返ってみますと、教養、医学関係図書の購入に当たっての検収作業で、特に医学関係図書の英語、ドイツ語の原書と発注書との照合には大変悩まされました。これには、山田学長はじめ大学関係者と当事務局とが総力をあげて行ったもので、私自身の日ごろの語学力を問われるなど、“苦がしい、思い出があります。

また、国立大学設置審議会委員による旭川医科大学設置の審査の時、仮校舎と関連教育病院の講堂に本協力の整備した研究機器約1,100点を整然と展示したのは、はたでみた人は勿論、全審議委員の驚異的でありました。これによっても大学設置に対する地元の熱意をあらわすことができ、各委員からおほめのことばをいただき、事務局一同“設置間近、を確信いたしました。

これらの経過全般を通じ「生まれいずる」喜びをしみじみと味わうことができましたことは、各方面からの絶大なご協力のたまものと存じます。

ここに、旭川医科大学設立の経過並びにその経緯を記述して、ご協力いただいた方々へのお礼をかね本書を発行いたしました。

ご高覧いただければ幸いと存じます。

最後に、本書の編集にあたり、道立三岸好太郎美術館長工藤欣弥氏をはじめ、旭川医科大学、北大、道、旭川市等の各関係者の格別のご指導、ご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

旭川医科大学設置記録編さん委員長
財団法人国立旭川医科大学設置協力会
専務理事兼事務局長 高 石 敬 三